



今月の記事

老衰死とは

先月からの愛の園

ここがこだわり！

リレーエッセイ

11～12月の予定



園長
武藤直二

「穏やかな最後を迎えるために」

この表題は9月に放送されたテレビ番組「老衰死」の副題です。この番組を見た入居者のご家族とお話する機会があり改めて録画を見直しました。簡単に内容をご紹介します。

老衰とは病があっても直接の死因にならず老いによって亡くなることを言い、近年は増加傾向にあります。老衰の進行は食べる量の減少に現れます。亡くなる1週間ほど前から食事を摂らなくなり、実は1年ほど前からカロリー摂取量は変わらなくても体重が減少していることが研究で明らかになってきました。老いによる細胞の減少によって臓器が委縮して体を維持・回復できなくなるからです。この時期に延命治療の判断をすることになりますが、海外の研究では経管栄養は生存期間の延長、栄養状態の改善、感染症の予防に有効性が認められず、認知症末期の方には適切でないといわれています。

ご家族の悩みは食べられないことで死が早まるのか、死に至る過程だから食べないのかであ

り、さらに人の最後は苦しくないのか、辛くないのか、長く苦しめるのはかわいそうとの思いだとされます。そうして悩み揺れる家族への支援が医療者・施設従事者の役割となります。

平穏な死を迎えることがご家族の望みです。死が近づいたときに痛みや苦しみを感ずるかのメカニズムは解明されていないようですが、海外の大規模な研究では死が近づくにつれ不快感を表す呼吸、表情、声の調子、筋肉の緊張が減少していることが報告されています。「最後の時、本人は死に抗って一生懸命に戦っているのではなくゆっくり休もうとしている、苦痛はあまりなく家族のできることは見守ること」と出演した医師は見送る家族に語り掛けます。死は負けではなく、安らかに死ねないことが負けであり、人には穏やかに人生を閉じる力が備えられている、と番組は纏めています。老いを受け入れながらその日々を委ねていけるよう、入居者のご家族への支援に努めてまいります。



愛の園での交わりの内に逝去された方々を偲ぶ逝去者記念礼拝が北山和民チャプレンの司式で行われ、10組18名のご家族に参加いただきました。 11/3

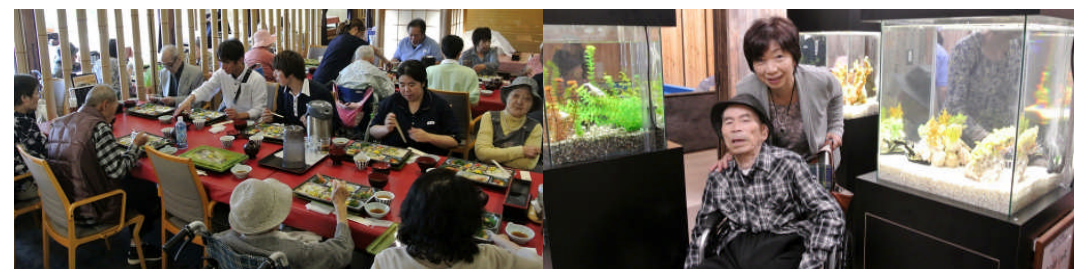
先月からの愛の園 あんなこと、こんなこと



今年もお招きをいただいて入居者の皆さんが岩田幼稚園の運動会に参加され、園児と共に参加した玉入れ競技を笑顔で楽しんでいました。 10/11



全国障害者スポーツ大会紀の国わかやま大会の「フライングディスク」競技を観に行きました。選手の方々の頑張りに感動しました。 10/25



秋の遠足、今年はいリニューアルオープンした「エビとカニの水族館」に行ってきました。綺麗な魚や珍しい蟹がたくさんいました。昼食は、すさみ町のベルヴェデーレにて食事をしました。皆さん美味しく召し上がられていました。 10/22

ここがこだわり！私のユニット 4ユニット

介護副主任
山本浩美

2F南西側にある4ユニットは女性9名、男性1名のユニットです。

私が4ユニットへ移動して8ヶ月が過ぎました。日々この仕事をさせて頂く中で常に心がけていることは、入居者の方々が「当たり前の事を当たり前に出る」ようにサポートすることです。「自分がしたいことを当たり前に出る。」



娘さんが持参されたパンケーキを好きな時間に食べる方、カラオケが大好きでご自分で歌詞カードを持参され、2階ホールでのカラオケに出かける方、ご自分でダンスの中から毎日好きな洋服を選び、入浴後には化粧水・乳液を念入りにつける方、天気の良い日にはベランダで日光浴をする方、自室でラジオから流れるFM田辺の放送に耳を傾ける方、車イスの方や寝たきりの方、認知症の方とそれぞれハンデキャップはありますが、少しでもご自宅で過ごされていた頃の生活に近づけられればと思います。

嬉しい時は笑い、腹が立てば怒り、皆との何気ない世間話に花が咲く、そんな当たり前の生活の中で皆さんが笑顔で過ごせる様これからも努力したいと思っています。

リレーエッセイ(39)「秋の遠足に参加して」

調理職員
田上祥代

愛の園の秋の遠足にて、すさみ町にある「エビとカニの水族館」に出掛けました。この遠足には入居者の方々は勿論ですが、ご家族の方々も一緒にご参加いただきました。

新しい紀勢自動車道を通り、すさみ町に着くまでは、あつという間で快適でした。

到着して、まずはホテルベルヴェデーレで昼食の幕の内弁当を食べたのですが、中身は栗御飯、酢の物、刺身、天婦羅等が入っていて、とても美味しかったです。入居者、ご家族の皆さんも美味しく召し上がられていました。

食事を終えた後、リニューアルされたエビとカニの水族館に行きました。普段見られないような希少な海老や蟹がいたので、入居者の皆さんも興味深く観賞されていました。

私は調理職員ですので普段は厨房で仕事を

しており、あまり入居者の方々と一対一で直接話をしたりする機会がないので、担当した入居者さんの普段見られない一面を発見することが出来て、貴重な経験が出来たと思っています。

次回の記事は、事務職員の則岡和代さんをお願いします。



入居者と共に水族館に入場する田上さん

「キリストの愛を以って
互いに仕える」

社会福祉法人神愛会
特別養護老人ホーム愛の園

〒649-2103
和歌山県西牟婁郡上富田町
生馬 316-56

TEL (0739)47-1234

FAX (0739)47-4329

Email ainosono@shinai.or.jp

ホームページもご覧ください。
バックナンバーを掲載しています

<http://shinai.or.jp>

11～12月の愛の園

- 12(木) やまびこ会 ヨガ教室
- 13(金) マリア会
- 15(日) 礼拝(み言葉の礼拝)
運動会
- 16(月) インフルエンザ予防接種開始
- 17(火) ひまわり会
- 18(水) 歯科診療
- 19(木) やまびこ会 ヨガ教室
- 20(金) 社協ボランティア来園
まりもと愉快的仲間たち来園
- 22(日) 礼拝(聖餐式)
- 24(火) マリア会
- 26(木) やまびこ会 ヨガ教室
岩田幼稚園収穫感謝の日来園
- 29(日) 礼拝(み言葉の礼拝)
- 6(日) 礼拝(み言葉の礼拝)
ヨネクラ玩具来園
- 8(火) マリア会

編集者から

10月に内閣府から初めて実施された「認知症に関する世論調査」の結果が発表されました。認知症とその暮らしについて、「できないことを自ら工夫して補い、医療・介護のサポートを利用すれば地域で自立して暮らせる」とプラスのイメージを持つ人は地域での生活を望み、「身の回りのことができなくなりサポートが必要で、暴言・暴力などで周りの人に迷惑をかける」とマイナスのイメージを持つ人は施設での暮らしを希望する方が多いとの結果でした。家族や周囲の人に身体的・精神的負担や迷惑を掛けること、ストレスを与えることが、自分にとっても家族にとっても大きな不安であるとも示されました。認知症への正しい知識と理解が進むこと、一人で抱え込むことのない相談・支援体制が充実されることの大切さを確認するレポートでした。(A)